

夏の企画展

— 戦傷病者の社会復帰と労苦 —

義肢に血が 通うまで



入館無料

2014.7.23 水 — 9.15 月

SHOKEI-KAN
しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

[会場] しょうけい館1階
[休館日] 毎週月曜日(祝日は開館)
[開館時間] 10:00~17:30(入館は17:00まで)



義肢に血が通うまで

戦傷病者の社会復帰と労苦

恩賞制度の一環として、戦傷病者に対して各種の人工補装具が支給されてきました。明治10(1877)年の西南戦争で、オランダ製の義肢を支給したのが始まりです。

明治27～8(1894～95)年の日清戦争では、昭憲皇后の「敵味方の区別なく人工手足を」との御沙汰があり、以来「御賜の義肢」として制度化されたのです。明治37～8(1904～05)年の日露戦争後、廃兵院や失明軍人のための盲学校などが設立され、社会復帰の施策が拡充されます。

昭和期には、それまでの審美的な「装飾義肢」に加えて、実用的な「作業用義肢」の開発と職業訓練が本格化します。

日常生活、各種の職業、用途別に作業用義肢が製作され、各人の適正と、義肢の特性を踏まえて様々な職業が選択出来ました。

慣れない義肢による職業訓練と社会復帰後の毎日は、あたかも義肢に少しずつ血を通わせて、体の一部にしていく日々だったのです。

本企画展では、館が所蔵する写真、史料、実物を交えて義肢の歴史をたどり、作業用義肢を装着して第二の人生を歩まれた戦傷病者の労苦を偲びます。



傷痕軍人記章



御賜の義足

◎証言映像

「厳しい訓練も今となれば」(9分44秒)

「小学校を出て先生に」(15分29秒)

「片手のハンデを乗り越えて」(17分48秒)

「働くために義手を」(14分54秒)

「片腕で取った自動車免許」(19分31秒)

「人間の尊厳の回復に尽くした生涯」(33分8秒)

◎展示解説

学芸員が企画展の展示解説をします。

申込不要

日時：8/3(日) 8/17(日)

8/31(日) 9/14(日)

の14時より約30分程度

当館は、戦傷病者とそのご家族等が戦中・戦後に体験した様々な労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。



〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下
TEL 03(3234)7821 FAX 03(3234)7826 URL www.shokeikan.go.jp



- 地下鉄をご利用の場合
「九段下」駅6番出口から徒歩1分(東西線、半蔵門線、都営新宿線)
- 都営バスをご利用の場合
「九段下」停留所から徒歩1分(高71系統(九段下～高田馬場駅))
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。